

富山高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	書道		
科目基礎情報								
科目番号		0003		科目区分		一般 / 選択		
授業形態		授業		単位の種別と単位数		履修単位: 1		
開設学科		国際ビジネス学科		対象学年		1		
開設期		後期		週時間数		2		
教科書/教材		書道Ⅰ（東京書籍）						
担当教員		立田 麻見						
到達目標								
古典を臨書することで技術を習得し、更に多様な書美を追求し『習字』と『書道』の違いを認識させる。創作作品の制作により、自分自身と向き合い、素直に表現する心を養う。								
ルーブリック								
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1 臨書		原本（手本）を忠実に模写し、尚且つ線質に深みと勢いが有ること。		原本（手本）を模写し、臨書の特徴をとらえることができる。		原本（手本）の特徴がとらえられない。		
評価項目2 創作		言葉の持つ意味を表現でき、自分の思いを線にのせることができる。		言葉の意味の表現が不足しているが、まとめることができる。		自分の思いを表現できる言葉が選ぶことができない。		
学科の到達目標項目との関係								
ディプロマポリシー 3								
教育方法等								
概要		学習目標（授業のねらい） 古典の臨書で技術を身に付けさせる。筆の理（角度によって線質が変わること）を理解できるよう指導する。創作作品の素材は、自分自身と向き合い、素直に表現できる語句を選べるよう導く。臨書を基に、更に語句に合った表現が出来るように指導する。						
授業の進め方・方法		講義・実習						
注意点		授業計画は、学生の理解度に応じて変更する場合がある。						
授業計画								
		週	授業内容		週ごとの到達目標			
後期	3rdQ	1週	ガイダンス 楷書の古典とその書風		古典の特徴と用筆を説明し、模範を示す。九成宮醴泉銘と孔子廟堂碑を比較し『清風』の臨書をさせる。			
		2週	楷書の古典とその書風		古典の特徴と用筆を説明し、模範を示す。九成宮醴泉銘と孔子廟堂碑を比較し『清風』の臨書をさせる。			
		3週	楷書の古典とその書風		古典の特徴と用筆を説明し、模範を示す。雁塔聖教序『無形』の臨書をさせる。			
		4週	楷書の古典とその書風		古典の特徴と用筆を説明し、模範を示す。自書告身『制度』の臨書をさせる。			
		5週	楷書の古典とその書風		古典の特徴と用筆を説明し、模範を示す。牛橛造像記の臨書をさせる。			
		6週	行書の古典とその書風		古典の特徴と用筆を説明し、模範を示す。蘭亭序『蘭亭』の臨書をさせる。			
		7週	行書の古典とその書風		古典の特徴と用筆を説明し、模範を示す。蘭亭序『天朗気清』の臨書をさせる。			
		8週	行書の古典とその書風		古典の特徴と用筆を説明し、模範を示す。争坐位稿『開国』の臨書をさせる。			
	4thQ	9週	行書の古典とその書風		古典の特徴と用筆を説明し、模範を示す。風信帖『風雲』の臨書をさせる。			
		10週	行書の古典とその書風		蘭亭序から自由に選んだ文字を、手本なしで書かせる。			
		11週	漢字仮名交じりの書		構成や線質によって変化することを示し、歌の一節などを書かせる。			
		12週	色紙作品		自身で選んだ語句の漢字を辞書で調べ、構成し自分なりに表現し書かせる。			
		13週	色紙作品		アドバイス、または教員が参考手本を書き、ひたすら書き込ませる。			
		14週	色紙作品		色紙に清書し、押印し、作品を完成させる。			
		15週	鑑賞とまとめ		出来上がった色紙作品の鑑賞会。作品についての制作意図を述べ、また他の生徒の作品について感じたことを述べる。			
		16週						
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標								
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合								
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計	
総合評価割合	0	30	0	20	50	0	100	
基礎的能力	0	30	0	20	50	0	100	
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0	
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	